

すこやかに

vol.71

とばとげんまっこ

AK 絵



夏休みになると、家にいる時間が多くなります。その貴重な時間に親子で一緒に料理を楽しんでみませんか。調理から片付けまで、料理の楽しさに気づく良い機会になるかもしれません。

海の博物館がお届けする

とばを育む海の森ガイド

vol.5

アマモを増やそう!



アマモ場は「海のゆりかご」



アマモの移植作業



アマモ

アマモは、ジユゴンの餌として知られていますが、古くは塩作りに使われ、また50年ほど前までは畑の肥料などに活用されてきた海草です。

アマモが多く生えているアマモ場は、稚魚などが育つ「海のゆりかご」と呼ばれるとても大切な場所です。しかし、この数十年で大変少なくなりました。養殖カキの産地、鳥羽市の浦村地区では、漁業者と中学生、海の博物館が協力してアマモを増やそうと2年前から活動を始めています。

半年ほど前に「アマモが生えている海はカキの生育がいい」との報告を聞きました。夏を過ぎると枯れていくアマモは、海水中にカキの餌(植物プランクトン)を育てる窒素などの栄養素を補給しているというのです。そういえば50年ほど前には、浦村周辺の海にはアマモがいっぱい生えていて、そのころはカキの生育が大変良かったといえます。

みなさんもアマモを増やす取り組みに参加してみませんか?



編集と発行

総務課広報情報係

〒517-0011 鳥羽市鳥羽三丁目1-1 ☎0599-25-1114

ホームページ <http://www.city.toba.mie.jp/>

Eメール koho@city.toba.mie.jp

資源保護のために再生紙を使用しています。

編集後記

広報マン



オススメ!

浜崎 暑い。この時期に職場まで歩いてくるのは大変。松川 どれくらい掛かるんですか?

浜崎 15分くらいかな。
寺本 それで毎朝、汗かいてるんや(笑)

浜崎 はいっ!でも健康的でいいですよ。寺本さんも歩いてみたらどうですか?

寺本 僕の家からは、歩いていくには遠いな。体動かさないかんのやけどな。

松川 じゃあ、早朝ランニングはどうですか?オススメで、最高ですよ!涼しいし。

寺本 早朝って何時なん?
松川 4時半くらいからです。
寺本 浜崎 ムリムリ...